





# 12月の漁況と海況

## ◎海況

※播磨灘……3～4日に実施した調査結果では東部は各層とも17.0℃台で+1.5℃、北西部各層16.5℃内外で+1.0℃、また南西部も各層16.5℃内外で+0.6℃を示し全海域にわたって前月に引続き高目となっている。

※大阪湾西部(淡路島寄り)……17日に実施した調査結果では北部は各層とも16.0℃内外、南部表・中層16.0℃、底層16.7℃を示し平年比較では南・北両海域とも本月は+1.0℃～+1.2℃高目となっている。

※紀伊水道北部……17日に実施した調査結果では東部の表・中層17.2℃で+1.8℃内外、底層18.0℃で+1.3℃、中部は各層とも17.0℃台で+1.0℃内外、西部15.7℃で+1.2℃と本月は全域にわたって+1.0℃～+2.0℃それぞれ高目となっている。

## ◎各地の漁況 (註・以下は1日1隻当りの平均漁獲量、@は1キロ当りの平均単価、何度は操業隻数)

※明石浦……小型底曳網メタカレイ10キロ@3,500@1,500、アマカレイ10キロ@1,000、オコゼ3キロ@6,500@5,000、アナゴ4キロ@2,250、キス10キロ@1,800@500、10隻(大阪湾北西部)。メタカレイ10キロ@4,500@3,000、アマカレイ10キロ@1,000、マダコ5キロ@2,000@1,500、アナゴ5キロ@2,500@1,500、25隻(播磨灘東部)。曳網ススキ10キロ@800、40隻。延縄アナゴ40キロ@1,500、2隻。ブンチン漕イシカレイ、アマカレイ15キロ@1,000@500、6隻。

※岩屋……小型底曳網アナゴ23キロ@800、エビ5キロ@1,800、ススキ3キロ@750、その他12キロ@1,000、50隻。一本釣ウマズラハギ13キロ@800@500、カサゴ3キロ@2,600、70隻。延縄アナゴ30キロ@1,800、17隻。各刺網キス25キロ@2,340、8隻。オコゼ、メタカレイ10キロ@2,000、アイナメ5キロ@2,000、5隻。タコ壺網35キロ@1,150、3隻。突棒ナマコ(赤)7キロ@1,950、ナマコ(青)10キロ@580、14隻。

※由良……各小型底曳網マダイ5キロ@8,600、5隻。ウシノシタ30キロ@1,350、シラサエビ2キロ@2,300、30隻。ススキ20キロ@600、キス3キロ@1,200、アナゴ3キロ@760、マダコ3キロ@1,200、シラサエビ2キロ@2,300、その他10キロ@400、40隻。各刺網キス20キロ@1,300、7隻。アマカレイ5キロ@2,300、ハギ10キロ@2,400、メタカレイ3キロ@2,700、その他8キロ@700、10隻。各延縄マダイ3キロ@8,800、2隻。キス10キロ@1,600、2隻。ハゼ10キロ@1,000、4隻。アナゴ25キロ@840、3隻。カサゴ10キロ@2,300、4隻。各一本釣マダイ1キロ@9,100、ハス2キロ@4,000、50隻。ハギ5キロ@2,500、ハマチ2キロ@1,300、50隻。曳網タチウオ10キロ@840、5隻。タコ壺網20キロ@1,350、2隻。突棒アワビ5キロ@2,800、サザエ2キロ@1,200、ナマコ5キロ@1,350、10隻。

※沼島……小型底曳網ハリイカ7キロ@900、カワツエビ3キロ@1,200、アナゴ25キロ@700、ススキ4キロ@800、48隻。各一本釣マダイ(成魚)3キロ@5,000～6,500@4,000～5,200@3,000～3,500、60隻。マダイ(カスコ)7キロ@1,300、3隻。ウマズラハギ13キロ@1,000、5隻。延縄アナゴ35キロ@800、2隻。刺網マダイ2キロ@4,000@2,000、ウマズラハギ25キロ@1,000@300、20隻。突棒ナマコ15キロ@1,500、アワビ3キロ@2,500、サザエ2キロ@1,000、8隻。

※福良……各小型底曳網シラサエビ2キロ@5,000@2,500、カワツエビ2キロ@2,000、雑エビ⑤5キロ@600、雑エビ④3キロ@200、ガザミ2キロ@3,000@1,200、ウシノシタ3キロ@1,000、その他10キロ@800、15隻。メタカレイ7キロ@2,400、ウシノシタ2キロ@2,650、ヒラメ3キロ@5,500、アマカレイ1キロ@1,000、オコゼ1キロ@7,000、マダコ4キロ@1,000、イカ10キロ@750、15隻。撒網釣マダイ②2キロ@2,250、ヒラアジ3キロ@2,000、ウマズラハギ60キロ@1,000@300、3組。各一本釣マダコ13キロ@1,250、25隻。ハゲモチ③3キロ@1,000、ハギ⑨5キロ@300、2隻。曳網サワラ13キロ@1,625、サゴシ13キロ@1,000、50隻。各延縄アナゴ85キロ@675、4隻。キス2キロ@1,400、カサゴ2キロ@1,500、シログチ2キロ@500、2隻。刺網アイナメ10キロ@1,000、イカ2キロ@700、アマカレイ1キロ@1,000、ボテ4キロ@800、6隻。各突棒ナマコ(赤)6キロ@1,500、ナマコ(青)3キロ@600、マダコ2キロ@1,000、ウニ9キロ@800、アワビ6キロ@2,500、サザエ1キロ@850、合計22隻。

# 1月の漁況と海況

## ◎海況

※播磨灘……8～9日に実施した調査結果では東部は各層とも12.0℃内外で+0.7℃、北西部各層12.4℃内外で+1.5℃～1.8℃、南西部各層12.5℃内外で+1.2℃～1.5℃とそれぞれ高目を示し前月に引続き高水温分布が持続している。

※大阪湾西部(淡路島寄り)……16日に実施した調査結果では北部は各層とも11.8℃、南部表・中層12.3℃、底層12.9℃を示し両海域とも平年比較では+1.0℃内外前月に引続き高水温分布が持続している。

※紀伊水道北部……17日に実施した調査結果では東部の表・中層は13.6℃で+1.5℃、底層15.2℃で+2.0℃と前月同様かなりの高目、中部表層13.1℃、中～底層13.5℃+0.5℃、西部は各層とも12.2℃内外を示し東・中部域に比し水温値は低いが同水域の平年比較では+1.3℃内外高目で前月に引続き全域にわたって高水温分布が持続している。

## ◎各地の漁況 (註・以下は1日1隻当りの平均漁獲量、@は1キロ当りの平均単価、何度は操業隻数)

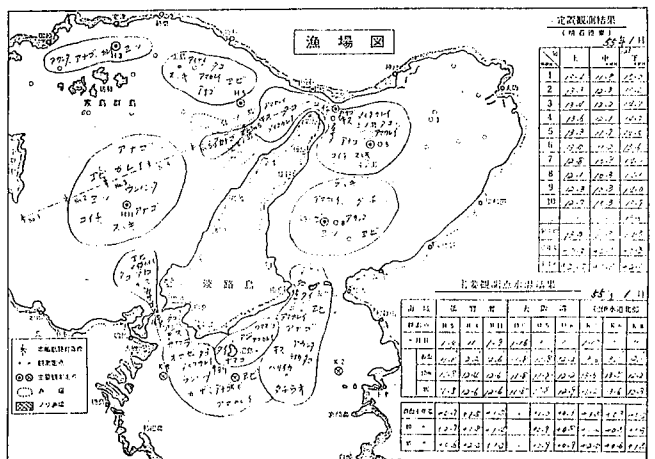
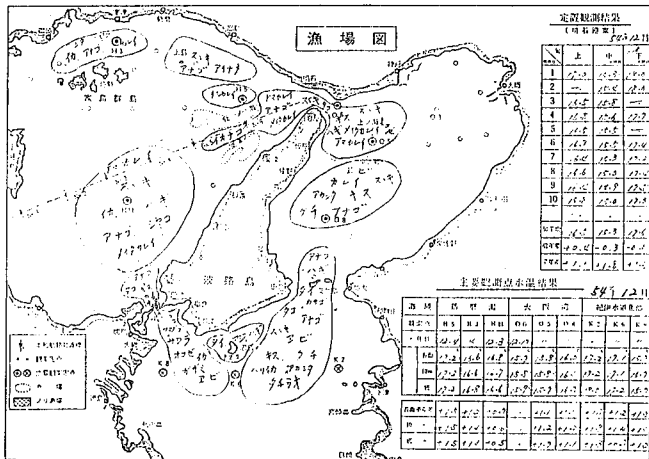
※明石浦……小型底曳網アマカレイ10キロ@1,200@800、メタカレイ10キロ@4,500@3,000、マダコ3キロ@1,750、キス7キロ@1,800@300、コイチ20キロ@400、10隻(大阪湾北西部)。メタカレイ15キロ@3,000～4,500、アマカレイ10キロ@800～1,200、マダコ5キロ@1,500～2,000、アナゴ3キロ@1,500～2,500、エビ10キロ@2,000～3,000、25隻(播磨灘東部)。イカナゴ船曳網フルセ1,200～2,500キロ@120～200、1統。曳網ススキ5キロ@200～2,500、20隻。一本釣アイナメ3キロ@2,500～3,500、10隻。各延縄アマカレイ50キロ@1,800～2,500、10隻(下旬より)。アナゴ50キロ@1,500、2隻。ブンチン漕イシダコ5キロ@3,000@1,000、イシカレイ5キロ@800～1,000、6隻。

※岩屋……小型底曳網エビ11キロ@1,800、アナゴ12キロ@1,200、グチ30キロ@300、その他11キロ@1,000、50隻。一本釣ススキ1キロ@1,800、アイナメ2キロ@1,800、カサゴ1キロ@2,500、75隻。延縄アナゴ40キロ@1,340@500、18隻。刺網キス20キロ@1,700、9隻。タコ壺20キロ@1,100～1,500、3隻。突棒ナマコ(赤)1,770、ナマコ(青)7キロ@880、アワビ1キロ@2,400、14隻。

※由良……各小型底曳網マダイ5キロ@7,460、3隻。ウシノシタ30キロ@1,500、35隻。ススキ20キロ@940、アナゴ5キロ@1,210、シラサエビ2キロ@3,500、マダコ5キロ@1,820、その他10キロ@400、40隻。各刺網キス20キロ@2,000、7隻。アマカレイ5キロ@1,700、ハギ5キロ@1,700、メタカレイ3キロ@4,000、その他5キロ@700、10隻。各延縄マダイ3キロ@7,900、1隻。キス10キロ@2,300、ハゼ10キロ@700、5隻。アナゴ30キロ@1,260、3隻。カサゴ10キロ@2,000、5隻。各一本釣マダイ1キロ@7,900、ハス2キロ@3,000、ハギ2キロ@1,800、10隻。カサゴ5キロ@1,800、20隻。曳網タチウオ10キロ@790、2隻。突棒アワビ5キロ@2,800、サザエ2キロ@1,200、ナマコ8キロ@1,300、10隻。

※沼島……カワツエビ3キロ@2,000、ススキ13キロ@700、キス12キロ@650、ハリイカ6キロ@1,200、テナガツコ15キロ@250、48隻。各マダイ一本釣成魚1～3キロ@6,500@5,200@3,500、20隻。カスコ5～8キロ@1,300、40隻。延縄アナゴ30キロ@700、2隻。刺網アジ30キロ@700、シログチ25キロ@500、ウマズラハギ12キロ@1,100@700@300、23隻。突棒ナマコ15キロ@3,000@2,000、サザエ5キロ@1,000、ナマコ25キロ@1,000、8隻。

※福良……各小型底曳網シラサエビ2キロ@5,000@2,500、カワツエビ1キロ@1,000、雑エビ⑤2キロ@900、雑エビ④1キロ@200、アカシタヒラメ4キロ@1,000、ガザミ2キロ@3,000@1,200、その他23キロ@800、10隻。アナゴ3キロ@800、メタカレイ5キロ@3,000、アマカレイ2キロ@1,100、アオシタヒラメ3キロ@1,600、オコゼ1キロ@6,600、マダコ5キロ@1,100、カサゴ5キロ@1,200、20隻。アオウシノシタ8キロ@2,200、コチ5キロ@1,500、マダコ3キロ@1,100、メタカレイ2キロ@1,500～2,500、3隻。撒網釣ヒラアジ35キロ@2,100、小アジ2キロ@800、1組。一本釣マダコ13キロ@1,150、15隻。曳網サワラ、サゴシ10キロ@、サワラ1,700、サゴシ1,300、5隻。延縄アナゴ90キロ@650、2隻。刺網キス35キロ@1,120、トラハゼ6キロ@150、11隻。船曳網サヨリ30箱1箱2,100、24隻。各突棒アワビ8キロ@2,730、サザエ2キロ@1,000、マダコ1キロ@1,200、セトガイ2キロ@325、ナマコ1キロ@500～1,000ウニ3隻、1箱1,500、合計15隻。



# 来遊量の最少期から脱出か カタクチイワシ・タチウオ・マアジ

## 衰退期に入った 黒潮の大蛇行

### 海況

在まで続いている四回が立っている。この現象は日本列島の南東部から東海にかけて流れている黒潮の蛇行が東へ伝播し、東海道沖に大蛇行して安定するまで、南西に進行するが、その時には蛇行流軸の内側に冷水塊が出現し、種々の回遊性魚種の生息分布や発生に大きく影響する。

このような大冷水塊の発生は、一九三〇〜三三年、三九年〜四三年、四九年〜五三年、五五年（昭和二八年）の四回、おおよそ一九七五年（昭和五〇年八月）から現在まで続いている。以上、今回の黒潮の大蛇行と大冷水塊は、三八年以降、黒潮の蛇行が安定して、黒潮流も沿岸流（五三〜五五年）と二九〇〜三〇年（昭和二八年）の二回を示している。（以上、昭和五〇年八月）から現在まで続いている。

## 昭和55年上半期の漁況予報 主として回遊性魚種について

### マイワシ

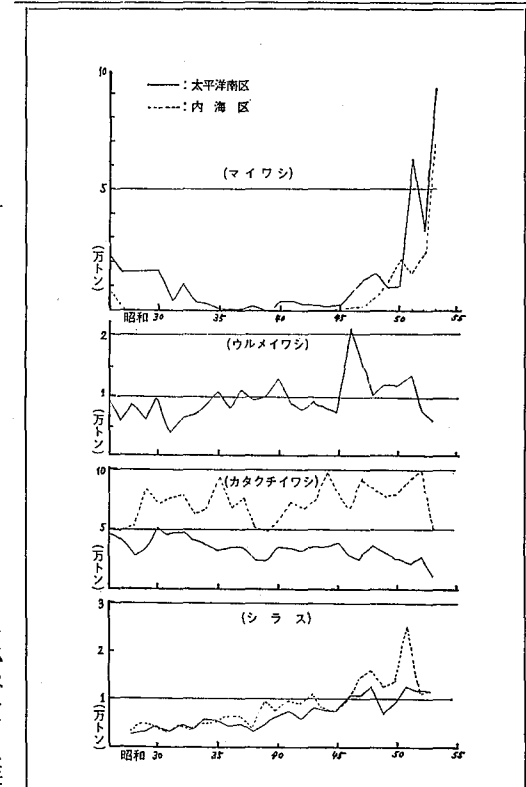
高水準にあり、なかでも全国平均の七〇〜八〇％を占める。太平洋系群は、昭和五二年には一〇〇万トンを超えて、安定した高水準を維持している。昭和四六年頃から増加してきた南西海区（瀬戸内海を含む）のマイワシは、四九、五〇年に一時頭打ち状態を示したものの、五一年から再び大幅に増加し、五三年には九万トンを越す漁獲を示した。

また、瀬戸内海での漁獲も全般的にスルメイカ資源の回復に伴って、五五年度上半期（五五年四〜九月）は、今冬魚の産卵に由来する〇才魚および一才魚以上の群も、全般的には前年並かややそれを上回る好漁がみられるだろう。

### カタクチイワシ

本種資源は近年全国的に減少し、きわめて低水準である。南西海区海域でも減少傾向が著しく、五三年の漁獲量は平均の三分の一以下となり、また、高水準にあった瀬戸内海域においても、五三年から急激な減少がみられている。

資源的には依然低水準にあり、今後の回復には依然低水準にある。



### シラス(予測)

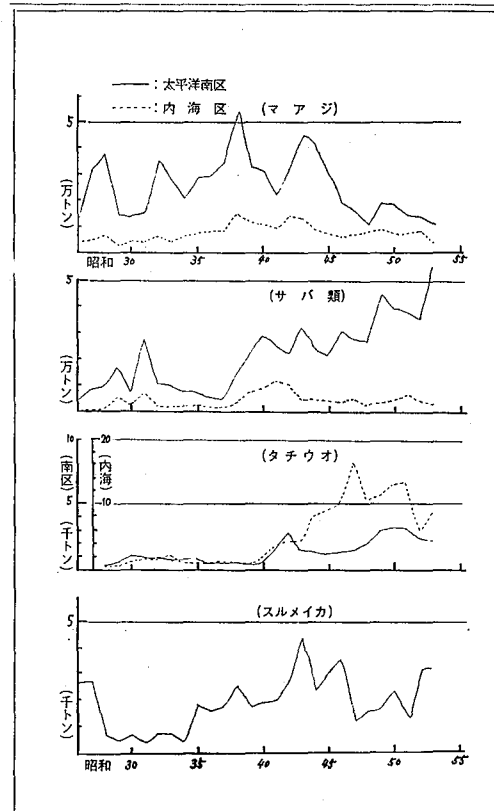
最近のマイワシおよびカタクチイワシの資源状態や産卵状況等からみて、五五年度上半期のシラス漁況は、前年同様、多いとみられる。

### スルメイカ

### タチウオ

全国的にスルメイカ資源は著しく低水準にあり、南西海区においても昭和四七年以降減少傾向が著しく、五二年に紀伊水道周辺で好漁がみられたものの、五三年からは再び減少し低水準に経過している。五四年下半期においては、熊野灘南部域の冬イカ漁は、やや好漁がみられ、室戸岬周辺でも前年を上回る漁がみられたが、平年には遅くおよばなかつた。

五五年度上半期の夏イカ漁は、紀南沿岸域（船木灘）や室戸岬西側の漁場が形成されようが、冷水塊が東偏して黒潮が瀬戸内海に接岸すれば、下層からの低水温の湧昇が活発となり、漁場形成に好条件となり、前年を上回る漁となる。



### マアジ

南西海区におけるマアジ資源は、昭和四六年頃から減少傾向が著しくなり、四九、五〇年頃や回復のきざしがみられたものの、その後も期待できそうにない。

### マサバ

南西海区におけるマサバ資源は、昭和三八年以降増傾向を続け、五三年に増傾向を続け、三八年以降では最大を示した。しかし、五三年をピークにして早期の春シラスは、全般的に前年並の好漁が期待されることが多い。

### 予測

以上、昭和五五年度上半期（五五年四〜九月）における漁況と漁獲の推移予想を示している。したがって、この数年低水準状態を示しているカタクチイワシやタチウオ、マアジなどが、直ちに来遊量を増加するとは言えないものの、近年における来遊量の最少期から脱しつつあるものと推定される。（水試 資源部）

### 回復の兆しがみられる カタクチイワシ

### アサリ二四 トンを放流

アサリ稚貝二四トンが、赤穂船越、松の浜地先などで放流された。

毎年秋に、赤穂漁協が地元漁民や一部のおひがり観光客のために放流しているもので、昨年は干ばつの影響などで実施できなかった。今年はこの影響を考慮して三月〜四月にかけて放流したもので、来年以降には成長し、漁業者や観光客に漁獲されることとなる。

### (予測)

マアジ資源は低水準が続いており、この傾向は今後もまだ持続するとみられる。五五年度上半期も期待はせず、前年同様低調な漁況に推移するだろう。ただ紀南沿岸域においては、黒潮の蛇行が安定すれば一時的な好漁は期待できよう。





# 水温は昨年より1°C低め

## 3/27~3/29現在

各地区の結果を総括すると次のようになる。

①水温は、各地区とも昨年比で1°C低し。

②透明度は、3.5~5.0で前月同様であった。

③PO<sub>4</sub>-Pは、8.40~8.54で前月同様であった。

④塩分は、29.3~31.1‰で、前月同様であった。

⑤CODは、0.56~0.91Pで、前月に比べて各地区とも高い値を示した。この原因は、水温の上昇に伴ない、珪藻類、プランクトンが増大し、それらによる排泄物、底土からの溶出等により有機物が若干増えたためと思われる。

⑥NH<sub>3</sub>-Nは、0.15~0.17mg/Lと大きく変動した。これは、赤潮(夜光虫)、河川からの流入等が考えられる。

⑦NO<sub>3</sub>-Nは、0.17~0.44mg/Lと、前月に比べてNH<sub>3</sub>-N、NO<sub>2</sub>-N、NO<sub>3</sub>-Nの平均値が上昇した。このために、前月より

### 各地区の状態

**西播地区**

赤穂(2点)網干、坊勢(2点)を調査した。赤穂では、3月27日現在、水温が上昇して、珪藻類が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。赤穂が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。赤穂が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。

**東播地区**

東二見、林崎、神戸を調査した。明石地区では、3月27日現在、水温が上昇して、珪藻類が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。赤穂が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。

### 漁協ちよつとのぞきみ

4月はすべてが生まれかわるとき……今回はそれな月を記念して、フレた。

信漁運 梶川須美子さん



入口をはいって左側が総務課、そこに梶川さんがいます。ちよつびりセナ子な彼女は映画が大好きで週に一度は映画館に行くとか。

金利の変動もはげしくなっています。がんばって下さい。

でも地方のセットから色落ちが進行している。今後ほ東播地区は網の整理に入り理に入るものと思われる。④由良、坊勢で赤潮(夜光虫)が発生している。

赤穂(2点)網干、坊勢(2点)を調査した。赤穂では、3月27日現在、水温が上昇して、珪藻類が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。赤穂が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。

赤穂(2点)網干、坊勢(2点)を調査した。赤穂では、3月27日現在、水温が上昇して、珪藻類が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。赤穂が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。

赤穂(2点)網干、坊勢(2点)を調査した。赤穂では、3月27日現在、水温が上昇して、珪藻類が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。赤穂が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。

赤穂(2点)網干、坊勢(2点)を調査した。赤穂では、3月27日現在、水温が上昇して、珪藻類が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。赤穂が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。

赤穂(2点)網干、坊勢(2点)を調査した。赤穂では、3月27日現在、水温が上昇して、珪藻類が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。赤穂が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。

赤穂(2点)網干、坊勢(2点)を調査した。赤穂では、3月27日現在、水温が上昇して、珪藻類が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。赤穂が急増し、赤くもまた曇りが上昇している。

### 感動の中国へ

#### 青年洋上大学生募集

今年(1974年)は、近畿青年洋上大学生と合同で実施。兵庫県では第10回兵庫県青年洋上大学生を募集する。

## 漁協一代(その八)

作花英治

とき、主人は直ちに私に大丸勤務を命じた。だが私が配転させなかった。しかし主人はこの現場の権利を友人の同業者に譲ったので私はよ

た。二、三回級級のグツグツと六、七回級のムーンが買ったもの程度のもの。七、八回級のグツグツと六、七回級のムーンが買ったもの程度のもの。七、八回級のグツグツと六、七回級のムーンが買ったもの程度のもの。

た。二、三回級級のグツグツと六、七回級のムーンが買ったもの程度のもの。七、八回級のグツグツと六、七回級のムーンが買ったもの程度のもの。七、八回級のグツグツと六、七回級のムーンが買ったもの程度のもの。

た。二、三回級級のグツグツと六、七回級のムーンが買ったもの程度のもの。七、八回級のグツグツと六、七回級のムーンが買ったもの程度のもの。七、八回級のグツグツと六、七回級のムーンが買ったもの程度のもの。



一滴の燃料を生かす確かな技術

# 余裕の出力、曳き力抜群!

船用玉柴ヤンマーディーゼル  
(内海底曳用)

**3EH15**  
(定格15馬力 / 1440回転)

●船舶主機用3.0~2400馬力  
●船舶補機用3.5~3600馬力

## ヤンマーディーゼル

ヤンマーディーゼル株式会社